

◆ 巻頭言

山川菊栄の女性解放史を今につなぐ

山上 千恵子

今年の3月、女性解放思想家・山川菊栄の生誕120年を記念して制作したドキュメンタリー『山川菊栄の思想と活動～姉妹よ、まずかく疑うことを習え』が完成した(企画:山川菊栄記念会)。

山川菊栄は、女性が今よりもっと抑圧されていた時代に女性の生きづらさの根源は家父長制家制度と資本主義経済機構にあるとして、性・階級・民族差別のない社会の実現のために闘い続けた女性である。菊栄の名を世に知らしめた「母性保護論争」では、国家・社会による母性保護論の平塚らいてうと経済的独立こそが先決とする与謝野晶子の対峙に、「いずれか1つではなく、双方共に正当な権利として要求すべきであり、その根本的解決は婦人問題を惹起し盛大ならしめた経済関係そのものの改変に求めるほかない」と社会科学的視点を加えた。

戦後はGHQによる民主化政策の下に新設された労働省の初代婦人少年局長となり、女性の労働行政に奮闘した。新しい時代を迎え、菊栄は女性たちに「自主・自立の精神をもて。そして社会変革の主体となれ」と呼びかけ、育成に力を注いだ。

没後30年を経て、私たちは菊栄が求めた女性の人権が尊重される社会を手にしたのだろうか? 社会状況や制度は変わっても女性の抱える問題は今も変わらない。むしろグローバル化した経済によって、より複雑な問題が生じている。非正規という働き方や広がる経済格差、母子家庭の貧困、巧妙になるセクハラ、暴力…。なぜなくなるのか? 菊栄は今も呼びかける。「これまで男性優位につくられた法や制度、社会の慣習をまず問い直せ! 婦人の解放の道はそこに開ける」と。私たちの望む法律や制度は上から与えられるのではなく、私たち一人ひとりが主体となって考え、つくっていくのだということをまだまだ忘れてはならない。



PROFILE

山上 千恵子
(やまかみ ちえこ)

1980年からビデオ制作を始め、(財)横浜市女性協会(当時。現公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会)企画の啓発ビデオ制作や女性のためのビデオ講座などに携わる。2001年、初の自主制作作品『ディア・タリー』が第3回ソウル女性映画祭コンペティションで観客賞を受賞。2004年制作『30年のシスターフッド』はトルコや台湾の女性映画祭などで上映された(共同監督:瀬山紀子)。